

1918. 3～

## ロシア共産党（ボ）第七回大会

事項訳注 P579～580

1918年3月6～8日にペトログラードでひらかれた。大会には表決権をもつ代議員46名と評議権をもつ代議員58名が出席した。彼らは17万人あまりの党員を代表していた。その当時、全党員数は30万をくだらなかつたから、かなりのものが代議員をおくることができなかつたわけである。これは、一つには大会が急に召集されたためであり、もう一つにはいくつかの州がドイツ軍に占領されていたためであった。

大会は講和の問題を最終的に解決するために臨時大会として召集された。レーニンはこの問題について報告した。トロツキー一派と「共産党左派」はブハーリンを報告者に立てて、彼らのテーゼをもちだした。大会はブレストの講和について、レーニンの決議案を賛成30、反対12、棄権4で採択した。大会はトロツキーとブハーリンの裏切的政策を非難し、大会で分裂主義的活動をつづけた「共産党左派」の政策を断罪した。こうしてブレスト講和がむすばれ、ソヴェト共和国は「息つき」をえた。なお同年11月に講和条約は破棄された。

大会はこのほかに、党綱領の改正と党名変更の問題を審議した。両方の問題でレーニンは報告を行った。レーニンの提案により、大会は党名を「ロシア共産党（ボリシェヴィキ）」と変更することを決議した。また新しい党綱領を最終的に作成するために、大会は特別の委員会を選出し、レーニンはその一員になった。大会はレーニンの書いた草案（「綱領草案下書き」——本巻、152～158ページ）を綱領の基礎とすることを決定した。

※ カーメネフ、ジノヴィエフ、リュコフその他は、十月革命後の初期にも、メンシェヴィキやエス・エル右派の参加した「同質の社会主義政府」をつくることを要求した。レーニンのこの立場との闘争については、本全集、第26巻を参照。

## フィンランドの革命

事項訳注 P581

1918年1月なかばに南部の工業地帯ではじまり、ヘルシングフォルス（いまのヘルシンキ）、ヴィボルグその他の大都市をまきこんだ。そのまえに前年の11月に政治的ゼネラル・ストライキがあった。これは1917年10月31日（11月13日）に火ぶたを切って二週間つづき、中央労働者革命ソヴェトの樹立が宣言された。1918年1月15（28）日にフィンランド赤衛軍は首都ヘルシングフォルスを占領し、翌16（29）日にはその地にフィンランド人民全権代表ソヴェトが樹立された。スヴィンフヴードのブルジョア政府はスウェーデンとドイツのブルジョアジーに助けをもとめた。彼らは北部で地歩をかためたあとで南部に攻撃をはじめた。こうして内戦が3ヵ月つづいたのち、五月にはフィンランドの労働者革命は、二万のドイツ上陸軍の助けをえた反革命勢力によって鎮圧された。

## ロシア共産党（ボ）第八回大会

事項訳注 P591～592

1919年3月18～23日にモスクワでひらかれた。大会には、313,766人の党員を代表する

表決権をもつ代議員 301 名と、評議権をもつ代議員 102 名が出席した。大会の議題は、中央委員会報告、党綱領、共産主義インタナショナルの創立、軍事情勢と軍事政策、農村における活動、組織問題、その他であった。

大会では新しい党綱領が採択された。綱領の審議のさいに、大会は、綱領から資本主義についての項と、小商品生産および中農経営についての項を削除することを提案したブハーリンの見解を、反ボリシェヴィキ的なものとして斥けた。ブハーリンの見解は、ソヴェト建設における中農の役割を否定するもので、メンシェヴィキ的＝トロツキスト的見解に通じるものであった。それと同時にブハーリンは、小商品生産から富農分子が発生し成長する事実を塗りかくした。大会はまた、綱領のなかに民族自決権の条項を入れることと諸民族の同権とに反対したブハーリンとピャタコフの、民族問題についての反ボリシェヴィキ的見解をも粉砕した。

第八回大会は中農にたいする党の新しい方針をさだめた。この方針は、農村における活動についてのレーニンの報告と、大会の採択した諸決定とによって決定された。大会は、中農の中立化の政策から、プロレタリアートの指導的役割を保持したうえでの中農との強固な同盟へうつることを提案した。

軍事問題では、大会は厳格な鉄の規律で貫かれた常備の赤軍を創設する決定を採択した。大会は、正規軍の創設に反対し、パルチザン主義の残存物を擁護した、いわゆる軍事的反対派の主張を拒否した。またトロツキーの軍事面での反党的活動を非難した。

大会は党建設とソヴェト建設についての決議を採択し、ソヴェト活動における党の指導的役割を否定した日和見主義的なサプロノフ＝オシンスキー・グループに反撃をくわえた。

党建設の問題では、大会は党員を全般的に再登録して党の社会的構成を改善するという決定を採択した。

## ロシア共産党（ボ）第九回大会

第 30 卷 事項訳注 P569

1920 年 3 月 29 日ー 4 月 5 日にモスクワのボリショイ劇場でひらかれた。大会には、表決権を持つ代議員 554 名と評議権を持つ代議員 162 名が、611,978 名の党員を代表して出席した。大会は経済建設の問題に重点をおいた。議題はつぎのとおりであった。(一) 中央委員会報告、(二) 経済建設の当面の課題、(三) 労働組合運動、(四) 組織問題、(五) 共産主義インタナショナルの任務、(六) 協同組合にたいする態度、(七) 民兵制度への移行について、(八) 中央委員会の選挙。

大会はレーニンの開会の辞でひらかれた。レーニンは大会で、中央委員会の政治活動についての報告とその結語を述べ、経済建設と協同組合の問題で発言し、閉会の辞を述べたほか、中央委員の候補者名簿について提案をおこなった。第九回党大会は運転、食糧、燃料、工業の分野での当面の経済上の課題をさだめ、労働組合が経済建設に参加する必要性を指摘した。とくに大きな注意がはらわれたのは単一の経済計画の問題であって、その問題のなかではまた全国民経済の電化の問題が主要な地位を占めた。大会は、企業における指導者の単独責任制に反対したサプロノフ、オシンスキーらのいわゆる「民主主義的中央集

権派」に断固たる反撃をくわえた。

大会がおわってから、まもなくレーニン生誕五〇年をいわれて祝賀会がひらかれ、その席上、レーニンの完全な全集を出版することが決定された。

### 共産主義インタナショナル第二回大会 第 32 卷 事項訳注 P571

(1920 年 7 ～ 8 月) で、無政府主義的グループ——ドイツ共産主義労働者党——にたいする闘争がおこなわれた。この一派は、ドイツ共産党から脱落した小ブルジョア的・アナルコ-サンディカリスト的・「左翼的」分子によって結成されたもので、のちには、ドイツ共産党と労働者階級とに敵意をいだくセクト的な小グループに転落し、また反ソ的な中傷をしきりにやるにいたった。

### ロシア共産党（ボ）第十回大会 第 32 卷 事項訳注 P569

1921 年 3 月 8 ～ 16 日にモスクワでひらかれた。大会には、73 万 2521 人の党員を代表する表決権をもつ代議員 694 名と、評議権をもつ代議員 296 名が出席した。

大会は中央委員会の政治活動報告、統制委員会報告、民族問題における党の当面の任務についての報告、割当徴発を現物税に代えることについての報告、党の統一とアナルコ-サンディカリズム的偏向についての報告、その他を聴取して審議した。

レーニンは開会の辞を述べ、その全活動を指導した。彼は中央委員会政治活動報告、割当徴発を現物税に代えることについての報告、党の統一とアナルコ-サンディカリズム的偏向についての報告、の三つの報告をおこない、これらの問題について結語を述べた。レーニンはまた、労働組合についてと燃料問題について演説し、最後に閉会の辞を述べた。さらにレーニンは、協同組合について、労働者と困窮農民の状態の改善について、党の統一について、党内におけるサンディカリズム的偏向と無政府主義的偏向についての諸決議の一原案を作成した。大会は労働組合についての討論の結果、圧倒的多数でレーニンの政綱を承認し、レーニンの提案した二つの決議原案（本巻、252 - 255、256 - 260 ページ）を採択した。

大会はまた、割当徴発を現物税に代えることを決定したが、これはソヴェト・ロシアが「戦時共産主義」から新経済政策（ネップ）の時期にはいることを意味した。

大会が選出した新しい中央委員会ではレーニンの支持者が圧倒的多数を確保した。

### ロシア共産党（ボ）第十回全国協議会 第 32 卷 事項訳注 P569

1921 年 5 月 26 - 28 日にモスクワでひらかれた。これは臨時の協議会であった。

協議会の主要な注意は新経済政策の実施の問題に向けられた。レーニンは協議会のために、食糧税についての報告と結語のプランを準備し、党中央委員会の活動計画について注記をくわえた。協議会ではレーニンは、まず開会の辞を述べ、ついで食糧税の問題について報告し、その報告の結語を述べ、さらにこの問題についての決議草案の準備をした。レ

レーニンがまた第四回労働組合大会の共産党グループの活動について報告し、最後に閉会の辞を述べた。三日間の会議で、レーニンは前後12回発言した。

レーニンの作成した新経済政策についての決議草案は、協議会によって採択された。

## 共産主義インタナショナル第三回大会

第32巻 事項訳注 P575

1921年6月22日ー7月12日にモスクワでひらかれた。大会には48カ国の共産党、左派社会党、社会党の代表と、国際青年同盟および国際婦人同盟の代表が参加した。大会には、コミンテルンに近いグループの代表も招請された。ロシア共産党(ボ)は、レーニンを団長とする72名の代議員をおくった。

レーニンは大会の名誉議長にえられ、大会の活動全体を指導した。レーニンはこの大会のために、『共産主義インタナショナル第三回大会におけるロシア共産党の戦術についての報告要綱』を作成した。レーニンは大会ではイタリア問題について演説し、共産主義インタナショナルの戦術を擁護する発言をおこない、ロシア共産党(ボ)の戦術について報告した。7月11日にはレーニンは、いくつかの代表団の代表たちとの会議で演説した。

第三回大会は、ロシア共産党(ボ)の戦術を全会一致で承認し、党の経済政策を承認し、さらに、万国のプロレタリアートにむかって、ソヴェト共和国の労働者・農民を支持して彼らの道をすすむことを呼びかけた。

## 党の粛清

1921年の後半に、第十回党大会の決定にもとづいて実施された。この粛清の結果、全党員の約25%にあたるほぼ17万名の者が除名された。

## 中央審査委員会

第33巻 事項訳注 P534

党の人的構成を審査する中央の委員会のことで、第十回党大会の決定にしたがって党の粛清を指導するために、1921年6月25日に党中央委員会によって設置された。

## レーニンの病気について

1922年3月6日

私の病気は、私が政治上の仕事に直接参加するのを数ヶ月も不可能にし、また私に課せられたソヴェト職務の遂行をまったくゆるさないが、その病気も、これを妨げることはないものとおもう。私には、数週間後には自分の仕事に直接かえりうるとあてにする根拠がある。

第33巻『ソヴェト共和国の内外情勢について』P215

金属労働者第五回全ロシア大会共産党グループ会議での演説

4月23日 エス・ペ・ボトキン博士記念病院で、銃弾丸摘出の手術をうける。

5月26日 病気の最初の発作。6月中旬、健康状態に若干の改善がみられる。

## ロシア共産党（ボ）第十一回大会

第 33 卷 事項訳注 P533

1922 年 3 月 27 日－4 月 2 日にモスクワでひらかれた。これは、レーニンが参加できた最後の大会であった。大会には、表決権をもつ代議員 522 名と評議権をもつ代議員 165 名が出席した。大会はつぎの諸問題を審議した。(一) 中央委員会の政治報告、(二) 同組織報告、(三) 監査委員会の報告、(四) 中央統制委員会の報告、(五) 共産主義インタナショナルの報告、(六) 労働組合について、(七) 赤軍について、(八) 財政政策、(九) 党の粛清の総括と党の陣列の強化。青年のあいだでの活動について、出版物と宣伝について(副報告)、(一〇) 中央委員会と中央統制委員会の選挙。

レーニンは開会の辞を述べ、中央委員会の政治活動について報告しその結語を述べ、最後に閉会の辞を述べた。

大会は新経済政策の最初の一年の総決算をおこなった。

## ジェノヴァ会議

第 33 卷 事項訳注 P532

1922 年 4 月 10 日～5 月 19 日に、国際連盟の主催でひらかれた。会議には、イギリス、フランス、イタリア、ベルギー、日本、ソヴェト・ロシア、ドイツその他 21 カ国の代表が出席した。アメリカの代表はオブザーヴァーとして列席した。

会議の公式の目的は、戦後の「中部および東部ヨーロッパの経済の復興」のための方策を協議することであった。しかし帝国主義者は、この会議で、ソヴェト・ロシアの経済的困難を利用してロシアを屈服させようとした。彼らは、戦前と戦時のツァーリ政府のすべての外債の支払と、革命後に国有化された外国資本家の資産の返還とを要求した。ロシアの代表はこれを拒否したので、会議は行きづまり、問題は同年 6 月～7 月にひらかれたジュネーヴの専門家会議にゆだねられたが、ここでもなんの成果も得られなかった。

レーニンはこの会議へのロシア代表団長に任命されたが、現地に行くことができなかったため、ロシア国内から代表団の活動を指導した。

1923年3月9日 レーニン 病気の三度目の発作

5月12日 レーニン ゴルキー村にうつされる

レーニン死去 1924年1月21日午後6時50分 ゴルキー村で